

小豆支部メディア教育研究部会活動報告

1 研究主題

「主体的に学び、生きる力をはぐくむ
メディア教育の創造」

2 はじめに

コンピュータやインターネットの急速な普及により、学校だけでなく家庭においてもコンピュータをはじめとする ICT 機器を利用する機会は増加している。最近では、ブログやツイッターなどのインターネット上のサービスが次々と現れ、それらへの依存度も日々高くなりつつある。

学校教育において、このような環境を適切に活用することにより、より豊かな学びの場を創造し、生徒にとって興味深い学習指導を行うことが可能になると考える。

3 研究の概要

- (1) 第1回部会（4月30日 土庄中学校）
 - ・研究組織、研究テーマ、研究計画の策定
- (2) 第2回部会（7月2日 内海中学校）
 - ・放送教材を利用した研究授業（2年理科）
- (3) 第3回部会（8月17日 土庄中学校）
 - ・エクセルマクロ実技研修および情報交換

4 研究内容

(1) 各校の取り組み

① 豊島中学校

ア 校内無線LANの活用

生徒用の校内LANは数年前より無線LANを整備している。コンピュータ室のみならず、校内のあらゆる場所からインターネット、生徒用サーバにアクセスすることができる。

イ 生徒の積極的なコンピュータの活用

生徒会や委員会、学級活動でも活用されている。生徒総会の資料は、生徒たちが自ら日本語ワープロソフトを利用し、原稿を作成している。

様々な活動の写真や資料も共通資料としてサーバに保存されており、総合的な学習の時間の発表などに利用するなど、生徒の積極的な活用に使われている。

ウ 授業におけるICT活用

教科の授業において、コンピュータを活用したシミュレーション画像やモデ

ル図を用いたり、ビデオ映像やCDなどの音声を使ったりすることで生徒の興味関心を高めるとともに、科学的な思考の手助けとしている。

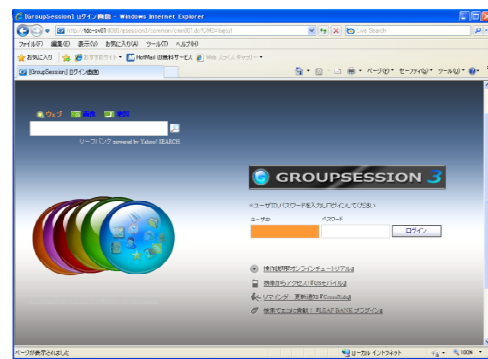
② 土庄中学校

ア データの流出防止

昨年度より、必要とする職員に対して、校務データ用のUSBメモリの貸し出しをしており、多くの職員が利用して校務を行っている。しかし、日本各地で起こった様々なデータ流出事故に学び、USBメモリの持ち出しによるデータの流出を防ぐため、今年度は、より細かな持ち出し管理規則および管理表を作成し、運用している。

イ グループウェアの導入

職員間の情報共有のため、グループウェア(GroupSession3 日本トータルシステム) 無料版を導入した。迅速な情報の共有化、配布資料の減少、さらに職員のスキル向上に役立っている。



ウ ビデオ映像の配信

放送室から放映するビデオ画像を、アナログ回線を通じて教室に設置されている大型デジタルテレビに配信し、人権学習の際の映画視聴や生徒会役員選挙の演説放送などに活用している。

③ 池田中学校

ア 授業におけるメディア機器の活用

コンピュータ教室を技術・家庭科と総合的な学習で利用している。技術・家庭科では、Web ページの制作やプレゼンテーションソフトを使い、発表会用の資料

を制作した。総合的な学習の時間では、インターネットを使って調べ学習を行ったり、プレゼンテーションソフトを使い、文化祭の発表会用の資料作りを行ったりしている。

1年数学「図形の移動」では、コンピュータで動画を見せることで分かりやすい授業の工夫を行った。また、プレゼンテーションソフトで作成した教材も活用した。

また、ビデオ視聴による学級活動、DVDを使った英語リーディング学習、音楽ではCD視聴による授業も行った。

イ 職員研修

現職教育でセキュリティについて、特に、一太郎、ワード、エクセルのファイルのセキュリティの研修を行った。

④ 内海中学校

ア 英語における実践

海外在住の元 ALT とビデオチャットソフトウェアを使い、授業の中でリアルタイムにコミュニケーションを行う。インターネットを使い、無料の通信ソフト、ビデオカメラとマイク、PC を組み合わせることで、かんたんに実践可能である。リアルタイムで画像、音声をやり取りでき、生徒の意欲も高めることができた。



イ 技術・家庭科、理科における実践

教材提示装置（卓上カメラ）を使い、ラジオの製作、裁縫、動物の解剖など、細かな作業の様子をスクリーンに投影することで、生徒の理解を助け、生徒の実習を円滑に進めることができた。

ウ 理科における実践

動画や画像の無料提供サイトを利用し、実物を直接観察しにくい内容を中心にスクリーンに投影し、基礎・基本の理解を助けることができた。また、プレゼンテーションソフトを活用し、進化などの

内容を系統的に指導することができた。

エ 総合的な学習の時間における実践

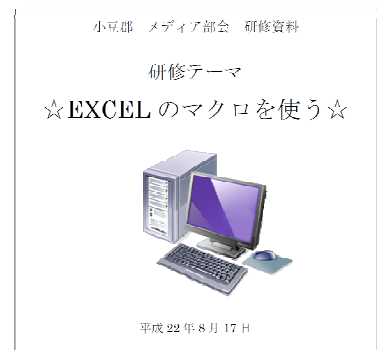
人権集会では、各学年ともプレゼンテーションを用いながら、学習発表を行った。写真の提示や学習内容の説明には、欠かせない方法となっている。

平和学習や人権学習において、音楽室や武道場等比較的大きな場所を利用して、学年全体に視聴覚教材を視聴させた。ポータブル DVD プレーヤーや液晶プロジェクターは小回りがきき、重宝している。

(2) 実技研修

ソフトウェアの活用スキルには個人差があり、特に表計算ソフトやデータベースソフトなどは、活用の必要性は高いものの、使いこなせるスキルを習得している教員は多くない。

そこで、成績処理等によく活用されている **Microsoft Excel** の活用法について、操作に堪能な先生を講師に招き、実技研修を行った。



5 おわりに

文科省のスクールニューディール構想の推進により、多くの学校の中に、電子黒板を含めた地上デジタルテレビや、生徒用コンピュータおよび校内 LAN が一気に整備された。ハードウェアの整備に伴い、活用する側のスキルアップが望まれる。現職教育で実技研修したり、メディア教育部員が積極的に授業公開したりして、教職員が学ぶ機会を増やしていく必要がある。

ほとんどの学校が、学校 Web ページを設置しており、特色ある教育活動や生徒の活躍等を地域や保護者に向けて発信している。しかし、作成については、教職員が行うにとどまり、生徒の目線での情報発信がなされていないのが現状である。そこで、今後は Web ページの作成作業に生徒が加わり、生徒が自ら主体的に情報発信していけるような環境にしていくことが大切であると考えられる。